

温水性魚類の産卵繁殖場の現状と課題

森田 尚

◆背景・目的

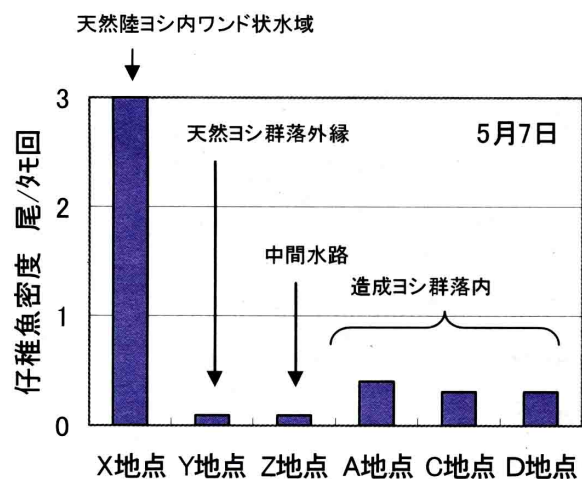
琵琶湖ではニゴロブナ等フナ類やホンモロコ資源の減少が著しく、天然繁殖の回復が急務である。その対策を立てるため、水位変動の影響の評価と、造成ヨシ群落など増殖場の改善策や有効な活用策について検討する。

◆成果の内容・特徴

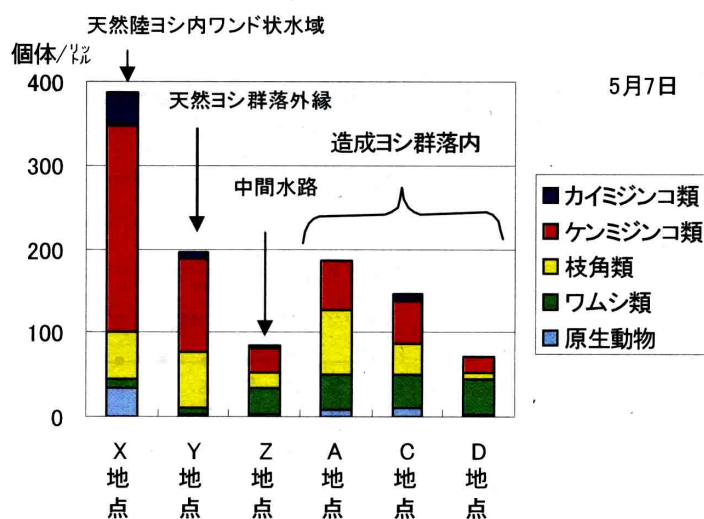
- 湖岸のヤナギ根にホンモロコ等の産着卵は長浜、海老江、針江において5月6日～25日に認められ、長浜、海老江では5月25日にピークが見られた。産着位置は水面下30cm～水面上14cmであったが水面上0～7cmに最も多く認められた。水位は5月18日から5月31日にかけて一日平均2.8cmの割合で低下しており、5月中～下旬の産着卵の多くは干出の影響を受けたと考えられた。
- 針江ヨシ群落でフナ類の仔稚魚が最も多く認められた位置は、岸寄りの天然ヨシ群落内であり、餌料生物の密度も高かったが、水位+6cmの時点で既に琵琶湖本体との接続が途切れていた。良好な仔稚魚の生育場所を確保するためには+10cm程度の水位が保たれる必要がある。
- 造成ヨシ群落では餌や仔稚魚が少ない等の問題が見られたが、優れた天然群落を参考にする、多段的なワンド状の地形や造成地の中に有機質を多く含む底質を導入した部分を設けること等が有効と思われる。

◆成果の活用・留意点

- 既存ヨシ群落の改善管理、新たな造成ヨシ群落の計画に役立てる。



針江ヨシ群落の各地点での仔稚魚密度



針江ヨシ群落における餌料生物の分布